

## 1. 長岡ドイツフェスト会場とのスカイプ通信見学

日時：6月24日（土）午前9:30～午前10:00 【トリアー現地時間】

会場：SAAR MOSEL WINZERSEKT社（SMW社）

内容：SMW社はワイン製造会社。ここで製造されるワイン、ゼクト（スパークリングワイン）は、ドイツ 1とも称され、瓶の中で一本一本発酵させ手作業で丁寧に作られる。

創業者・社長であるアドルフ・シュミット氏はトリアー独日協会の副会長であり、アオーレドイツフェストで国際交流協会が行うワインセミナーに合わせてこれまで3回来岡している。

この時間は、SMW社を会場に、アオーレ長岡で開催されていたドイツフェストとスカイプで通信し、市長を初め互いの会場にいる市民同士が交流を行い、楽しいひとときだった。



## 2. トリアー応用科学大学訪問

日時：6月24日（土）午前10:00～午前11:30

会場：トリアー応用科学大学

内容：長岡造形大学とトリアー応用科学大学が、将来の大学間連携協定を視野に入れ交流を約束し、文書に両学長が署名した。長岡市とトリアー市両市議会議員も同席した。また長岡造形大学生5名が転太鼓舞演奏を披露し、会場にいた関係者から拍手喝さいを浴びていた。



### 3. 長岡市・トリアー市両市議会議員意見交換会

日時：6月24日（土）午前11：30～午後12：45

会場：トリアー応用科学大学

内容：長岡市議会議員6名と、トリアー市議会議員6名プラス副市長1名で、懇談を行った。初めに両市議会議員が互いに自己紹介した後、事前に長岡市からトリアー市へ送付していた質問事項について回答してもらう形で懇談が進められた。懇談会は和やかな雰囲気の中進められ、一つの質問に対して複数の議員から回答をもらうなど活発な議論がなされ、時間が足りない位であった。人口減少の問題、今後の両市の交流について、再生可能エネルギーについて等、課題を共有できる部分、解決の糸口になりそうな部分などを見出すことができ、互いに今後の市政に反映できる有意義な意見交換会であった。



### 4. 日本庭園「宇楽園」訪問

日時：6月24日（土）午後2：45～午後3：15

会場：日本庭園「宇楽園」

内容：「宇楽園」は2004年にラインラントプファルツ州ガーデンショーの一環として、トリアーの各姉妹都市の庭園が造られたうちの一つ。造成資金の一部は長岡市民の協賛金であり、鈴木重一氏が設計・造成した。整備された日本庭園は、他の姉妹都市の庭園の中でもひと際美しさを際だたせていた。





## 5.10周年記念コンサート

日時：6月24日（土）午後6:00～午後8:00

会場：メルシー高校

内容：トリアーのテノール歌手トーマス・キースリングさんと長岡市出身のソプラノ歌手鈴木愛美さん他による、10周年記念の公演が行われた。会場には関係者のほか、多くのトリアー市民も集まり、コンサートを楽しんでいた。キースリングさんは平成28年10月に長岡での10周年記念事業のため夫人とともに来岡している。また今年11月にも来岡し、長岡リリックホールで再び鈴木愛美さんと共演する予定である。



## 6. トリアー独日協会主催姉妹都市締結10周年記念パーティ

日時：6月24日（土）午後8:00～午後10:00

会場：S MW社

内容：在フランクフルト総領事神山武氏、トリアー独日協会会長アウバート氏他役員等関係者も出席のもと、カジュアルな雰囲気での交流パーティが行われた。両市のこれまでの交流にはアウバート氏ほか協会関係者の尽力が大きく、磯田市長と丸山議長から感謝の意を表したほか、神山総領事には両市の交流への更なる支援を依頼した。また、小国和紙で作ったドレスも紹介された。



## 7. トリアー市表敬訪問・レセプション

日時：6月25日（日）午前10:00～午前11:00

会場：トリアー市庁舎議場

内容：姉妹都市締結10周年を迎え、今後の交流をさらに推進していくことを確認する「姉妹都市締結10周年記念再確認調印書」に、長岡・トリアー両市長が署名した。また記念品の交換が行われ、長岡市からはトリアー市のライベ市長へ、長岡市在住の書家田中玉蘭氏制作の書「互尊独尊」が送られた。丸山議長もスピーチを行ったほか、ゲストブックに署名をした。

レセプションの行われた議場はもと教会で、礼拝堂の趣を残す美しい会場であった。



## 8. トリアーマラソン勝者に磯田市長、丸山議長が記念品贈呈

日時：6月25日（日）午前11:30

会場：ポルタ・ニグラ前

内容：当日は朝からトリアーマラソンが行われており、ちょうど宿泊ホテルの前を通過した際には、訪問団一同で声援を送った。ゴールはユネスコ世界文化遺産にも指定されたポルタ・ニグラ前で、ここにステージが作られ磯田市長、丸山議長が入賞者に記念品を贈呈した。会場周辺はアルトシュタット・フェスト（旧市街地祭り）が開催されている最中であり、非常に多くの人々で賑わっていた。



## 9. ビットブルガービール工場見学

日時：6月25日（日）午後2：00～午後3：00

会場：ビットブルガービール工場

内容：ここは、1817年創業のビットブルク市にあるビール醸造所である。ドイツサッカー協会、代表チームのスポンサーも務めているとのことで、世界60か国で販売されているとのこと。ビールの製造過程を映像や模型等を見ながら見学した。



## 10. トリアー市主催夕食会

日時：6月25日（日）午後6：00～午後10：00

会場：ネルズパークホテル

内容：会場のホテルには池やバラ園を備えた大きな庭があり、まずはこの庭でレセプションが行われた。夕食会にはトリアー市の市議会議員も数名出席しており、その中には昨日の懇談会には出席されなかった議員もいて、また新たな交流ができた。ドイツでは食事は時間をかけ、会話をしながら楽しむものであるようで、夜の10時まで緩やかに時間をかけて夕食会は行われた。両市の市長のあいさつのほか、丸山議長もスピーチを行い、会の終わりにはキースリングさんと鈴木愛美さんによるミニコンサートも行われ、終始和やかなムードであった。市長と議長は、トリアー市とのこれまでの交流や今回の訪問のもてなしに感謝の言葉を伝え、今後の新たな交流の可能性（ワイン・酒など地場産業の交流、スポーツ交流など）にも言及した。長時間にわたり温かいもてなしを受け、今後も両市の絆が固く結ばれ、末長い交流が続いていくであろうことを確信できた。





## 11. 大英博物館見学

日時：6月26日（月）午後2：00～午後4：00

会場：大英博物館

内容：トリアーをあとにし、この日の午前中にルクセンブルク空港からロンドンシティ空港まで移動し、イギリスへ到着した。大英博物館では日本セクション学芸員であるニコル・ルマニエール氏から案内をしていただき、火焰型土器を初めとする日本ギャラリーの展示品について説明を受けた。大英博物館は入場無料で、写真撮影・フラッシュもOKであった。日本ギャラリーは三菱商事の支援で運営されているとのこと。長岡市の火焰型土器は平成28年10月から3年間の予定で常設展示されている。ルマニエール学芸員の話では、火焰型土器を見た外国人来館者は、3500～4500年前の日本でこれだけの装飾が施された土器が作られ、使用されていたことを知ると皆感心するそうで、火焰型土器の展示は日本の縄文文化の世界への発信に大きな役割を果たしていると感じた。



## 12. 在英日本国大使館訪問

日時：6月26日（月）午後4：30～午後5：00

会場：在英国日本国大使館

内容：市長夫妻、市議会議員、国際交流協会理事長、専務理事等で大使館を表敬訪問し、鶴岡大使、飯田公使から対応いただいた。30分程度の懇談の中では、インバウンド政策やオリンピック開催に伴う地域活性化において、特に地方都市として必要な工夫について話し合われた。大使からは、日本のファンであるイギリス人は非常に多く、さらに増やすためには「おもてなしの心」とともに「英語力の強化」が不可欠であるとのお話をいただき、参考になった。



### 13. 行政視察（オリンピックレガシー）

日時：6月27日（火）午前9：00～正午

会場：ロンドンオリンピック跡地

内容：ロンドンオリンピックの会場となったオリンピックパークを訪れ、再開発に携わったニューハム区役所の職員から説明を受けたり、現場を視察したりした。ニューハム地区はもともと再開発目的の土地であったが、オリンピック会場に決定してから施設や公共交通が整備され、インフラのみならず人々の行動にも変化が起きた。具体的には期間中の交通渋滞を防ぐため、通勤のための自転車専用レーンがまちなかに整備されたが、オリンピック後も人々が自転車を利用し、健康面や環境面に配慮するようになったという。また、再開発の波は5年経過した今でも続いており、至る所に工事現場が見受けられ、マンション、スポーツ専門学校などが建設されていた。東京オリンピックに向けて合宿所の誘致を予定している長岡市にとっても、参考になる話であった。

